



Press Release

公益財団法人 JR 西日本あんしん社会財団
〒530-8341 大阪市北区芝田二丁目 4-24
TEL 06-6375-3202 FAX 06-6375-3229

「平成 25 年度公募助成 (活動及び研究)」の 助成先の決定について

JR 西日本あんしん社会財団では、平成 25 年度も「安全で安心できる社会」の実現に向け、心身のケア、防災、救急救命、事故防止など身近な「いのち」を支える活動及び研究に対し、公募による助成を募集しておりましたが、このたび審査を終え助成先を決定いたしましたので、下記のとおりお知らせします。

記

1. 応募及び選考結果

本公募助成は 4 回目の募集であり、事故、災害が起こった際の備えやその後のケアに関連する活動や研究に加え、これまで 3 回にわたって別の実施してまいりました「東日本大震災に関する活動助成」に平成 23 年台風 12 号の被災地・被災者支援に関する活動を「活動助成(特別枠)」として盛り込み、募集を行いました。その結果、活動助成 80 件、活動助成(特別枠) 57 件、研究助成 27 件の計 164 件のご応募をいただきました。

ご応募いただいた全ての案件について、当財団の事業審査評価委員会において厳正な審査を実施したところ、助成の趣旨に合致した大変質の高い応募が多数寄せられたことから、理事会において当初予定していた助成金総額約 3,500 万円を大きく上回る 4,054 万円の助成を行うことを決定いたしました。

	応募件数	採 択	
		件 数	金 額
活動助成	80 件	23 件	1,798 万円
活動助成(特別枠)	57 件	12 件	881 万円
研究助成	27 件	7 件	1,375 万円
合 計	164 件	42 件	4,054 万円

各助成先の助成対象テーマ及び助成額は、別紙 1「『平成 25 年度公募助成(活動・研究)』助成先一覧」をご参照ください。

事業審査評価委員会における審査状況の詳細及び審査総評は、別紙 2「『平成 25 年度公募助成(活動・研究)』の審査結果について」をご参照ください。

2. 助成期間

平成 25 年 4 月 1 日から平成 26 年 3 月 31 日までの 1 年間です。

3. その他

- (1) 平成 25 年 3 月 26 日(火) 15:30 より、ホテルグランヴィア大阪 20 階「鳳凰」にて、平成 25 年度公募助成贈呈式を執り行う予定です。
- (2) 募集要項等、本公募助成の詳細はホームページ(<http://www.jrw-relief-f.or.jp/>)をご覧ください。

「平成25年度公募助成(活動・研究)」助成一覧

【活動助成】 ()印の8件は継続助成

(団体名50音順、単位:万円)

活動名称	団体名	主な活動内容	助成額
遺族の悲嘆を分かちあい、支えあおう!!	特定非営利活動法人 遺族支え愛ネット	大切な人を失ったことで悲嘆に悩み、立ち上がれない人々に対し、ともに語り合い、悲しみを分かち合い、社会復帰してもらうため、毎月、サロン活動を開催する。	81
市民全世帯に「バナナ防災ラジオ」の普及をめざして!!	特定非営利活動法人 エフエム和歌山(和歌山市のコミュニティー放送局)	災害時の警報情報の入手に有効となる自動的に最大音量・良音質で伝達できる緊急告知FMラジオ「バナナ防災ラジオ」を普及し、市民に安全と安心を提供するとともに、防災意識を向上する。	74
SIDS(乳幼児突然死症候群)研究セミナー	LSFA乳幼児応急手当普及会	SIDS(乳幼児突然死症候群)発生時には、ただちに心肺蘇生の実施が必要であることから、保育士にスキル習得の促進を目的としたセミナーを開催する。	19
子どものための陸上・水面安全レスキューサポーター育成&リーダー養成 ()	特定非営利活動法人 オーシャンゲート ジャパン	子どもの水にまつわる事故に対する応急手当を普及するため、応急手当と人工呼吸や水面安全サポート方法、水面・波打ち際・陸上での連携システムの普及と高い安全意識の浸透を図る。	100
交流イベントを通じて生み出す住民主体意識と久崎の活性化 ()	関西学院ヒューマンサービスセンター	水害発生から4年目となる兵庫県佐用町久崎地区で住民の交流の場であるコミュニティカフェを継続開催するとともに、カフェの運営に住民の意見を取り入れることで、主体意識を醸成し活性化につなげる。	100
高齢者の災害記憶の収集と活用 - 復旧時の地域コミュニティ活動について -	公益財団法人 公害地域再生センター	過去の災害における地域コミュニティが果たした機能の聞き取り調査を行い、これらを通じてお話を開催し、さらに過去の記憶をまとめたニュースレターを発行することで、地域コミュニティによる共助力を高める。	100
災害時要援護者及び全世帯避難訓練 子どもサバイバルキャンプ(防災訓練) ()	桜ヶ丘2丁目自治会	地域の防災力強化を目的とした災害時要援護者と全世帯を対象にした避難訓練を実施するとともに、将来災害に遭遇するであろう子どもたちを対象にした子どもサバイバルキャンプ(宿泊防災訓練)を開催する。	90
すずかけ台はみんなで助け合う安全・安心な街、地域ぐるみで取り組む自主防災訓練	三田市すずかけ台自治会	三田市消防署等との連携により、災害時の実践的な救援・救助方法を身に付ける自主防災訓練大会を実施し、災害発生時の避難場所の周知と地域住民で助け合える体制、個人の意識向上を図る。	20
ラダーレスキューシステム講習会 (梯子を使った救助方法)	特定非営利活動法人 ジャパン・タスクフォース	全ての消防本部に配備され、他の防災関係組織でも容易に入手可能な梯子(ラダー)やロープを用いた救助方法(ラダーレスキューシステム)の講習会を開催することで救助者の知識・技術の向上を図る。	100
防災・防犯まちづくり 「命を守るための防災活動発表会 & 防災「地産地消」展」 ()	特定非営利活動法人 震災から命を守る会 和歌山県本部	災害時の行政の防災対策実務、役割・行動等や東日本大震災・紀伊半島水害の復興支援に従事している団体による発表会と地元生産の防災用品、非常食等の展示会を同時開催する。	100
「聖と防災ふえすた」	聖和寄り合いまちづくり	子どもからお年寄りまで楽しみながら防災意識を高められるプログラムによる防災・減災イベントを開催し、参加した幅広い年代の世代間交流や、いざという時に助け合えるよう地域交流を促進する。	15
緊急医療支援手帳 兼 膠原病手帳の配布	全国膠原病友の会(事業部)	治療薬の服用が滞ると生命にかかわる膠原病患者が災害時に早急な医療情報を得られるよう、必要な情報を掲載した携帯用の手帳を作成・配布する。	50
4・25 あの日を忘れない! ()	「空色の会」 - JR福知山線事故・負傷者と家族等の会 -	福知山線列車事故の風化防止を願い、4回目となるメモリアルウォーク開催と「空色の菜」の配布、及び被害者の心身の真の回復の一助となるよう専門家による健康相談会や勉強会を開催する。	80
在住外国人向け「家庭・地域でできるファーストエイド」 ハンドブックの作成・講習会	多文化共生センターひょうご	在住外国人が救急対応を学べるよう、多言語によるハンドブックを作成するとともに、消防局との協働で救急講習を開催し、在住外国人が家族や身近な人を助け、地域の助け合いに参画できる一助とする。	100
第5回灯りてつながる夜 ()	灯人	福知山線列車事故関係者への心のケアと事故被害の風化防止を目的に、事故によって生まれた様々な「つながり」を視覚的に表現するキャンドルナイトを開催し、若い世代にご遺族、ご被害者、関係者の思いを伝える。	100
病院ボランティアの災害時マニュアル作成	特定非営利活動法人 日本病院ボランティア協会	災害が起こった際、患者やその家族を支援する病院ボランティアの活動の指針を策定し、冊子を作成して病院ボランティアグループや病院に広く配布して災害時の備えとする。	100
アレルギーをもつ子どもと家族の為の防災キャンプ	のびのびの木	アレルギーを除いた食材による炊き出しや防災学習を盛り込んだキャンプを実施し、自主防災意識を醸成するとともに、参加家族による交流を通して、地域コミュニティ、ネットワークづくりにつなげる。	60
東日本大震災に学び地域の子どもたち保護者を守ろう。	特定非営利活動法人 ばすてる ひまわり保育園	東日本大震災の被災地を訪問して災害の現実を学ぶことで、保育士の危機管理能力の育成と災害時に必要な物品を確保し、緊急時の保護者・地域住民との連携システム・ルートマップを作成し避難訓練を実施する。	98
救急災害時支援活動 ()	晴美台校区福祉委員会	個人の支援情報入りカプセル(安心カプセル)を冷蔵庫に保管する活動を地域内で普及することで、災害時の救助を的確、スムーズに行える体制を構築する。	40
東川崎防災ジュニアチーム 「育てよう未来の防災力」	東川崎ふれあいのまちづくり協議会 防災部会	防災の担い手の高齢化を受け、中学生を対象に組織した「東川崎防災ジュニアチーム」に消火・救急・救助・防災学習の定期訓練を行い、将来の減災力・地域の安全を牽引する力を醸成する。	100
25年度透析患者緊急時一斉メール配信事業	特定非営利活動法人 兵庫県腎友会	最低中3日で透析を受けなければならない透析患者に対し、災害時に災害情報・透析施設情報を知らせるために、透析患者の携帯電話へ緊急時一斉メールを配信する仕組みを整える。	71
レッドヘアサバイバルキャンプ	特定非営利活動法人 プラス・アーツ	親子で一緒に学べる避難生活体験プログラムを通じて、子どもたちが災害時に生き抜くたくましさや創造力・想像力を養い育む場を提供するだけでなく、サポートメンバーが災害時に地域を支える人材となることを目指す。	100
JR福知山線列車事故被災者支援募金イベント - フレンズがわにし ()	フレンズ川西フェスティバル実行委員会	福知山線列車事故の風化防止を目的に「第8回フレンズ川西フェスティバル」を開催し、コンサートや福知山線列車事故に関する展示を行うほか、事故被災者支援のための募金を呼びかける。	100
活動助成小計 23件			1,798

【別紙1 - 】

「平成25年度公募助成(活動・研究)」助成一覧

【活動助成(特別枠)】

(団体名50音順、単位:万円)

活動名称	団体名	主な活動内容	助成額
笑顔を咲かせよう Rits×MIYAKO プロジェクト	R7 ～笑顔を咲かせよう Rits×MIYAKO プロジェクトチーム～	被災地で「夏の学習支援」「出張屋台」「伝承遊びイベント」「科学フェスタ」といったイベントを通じて、子どもを中心とした被災者の心を豊かにし地域コミュニティ再構築に貢献する。	100
被災地の学校図書館へ本を「贈ろう」プロジェクト	特定非営利活動グループ あくせす・ばいんと	被災地の学校図書館に不足している(絵本ではない)活字の児童書を全国から募り、被災地の学校図書館からリクエストのあるもののみを配送(寄贈)することで、子どもたちの学習機会喪失の回復を図る。	50
東北被災地の障害者作業所物品の 尼崎での販売による支援活動	特定非営利活動法人 尼崎障害者センター	東北被災地の障害者作業所の品物が風評被害により販売不振となっていることから、作業所の品物の販売支援を行うだけでなく、尼崎で東北被災地支援活動を行うグループ間の連携を図り、息の長い支援体制を構築する。	30
福島県浜通りの避難者の西日本における交流活動	関西浜通り交流会	福島県浜通り地区から関西に避難してきた人々同士がコミュニケーションを図ることができる交流会を開催することで、故郷へ帰還できる見込みの立たない人々への心のケアと自立を図る。	75
西宮市および周辺地域における県外避難者支援	関西学院大学災害復興制度研究所	東日本大震災の県外避難者同士の交流イベントを通じて、被災者間の交流や情報の共有を図り、避難者の多様な個別の関心・ニーズに対応するべく、行政や各種団体と連携を行う。	55
東日本大震災被災市町村の 復興事業担当者に対する支援活動	神戸防災技術者の会(略称K-TEC)	復興事業に従事する東日本大震災の被災自治体職員を神戸に招聘し、阪神大震災からの神戸の復興事業の進め方を学んでもらい、被災者の早期生活再建につなげる。	100
被災地で活動する音訳ボランティア支援事業	社会福祉法人 視覚障害者文化振興協会 (JBS日本福祉放送)	被災地の視覚障害者がより容易・迅速に情報入手できるように、音訳技術・録音編集のノウハウを被災地のボランティア団体を育成、スキルアップさせることで、継続的な情報支援を目指す。	100
平成23年台風12号被災者応援事業	つれもて和歌山	視覚障害者が台風12号で被災された方々に対して傾聴しながらマッサージを行うことで、こころのケアを必要とする被災者と被災者の力になりたい視覚障害者の双方のニーズに応える。	62
被災者に対するセラピードッグ慰問事業	特定非営利活動法人 日本レスキュー協会	台風12号災害及び東日本大震災の避難所・仮設住宅及び県外避難者の避難先をセラピードッグを連れて慰問することで、避難生活が長期化している被災者の心のケアを行う。	100
みちのくだんわ室 (東日本大震災による県外避難者さんの癒しの場)	東日本大震災・暮らしサポート隊	東日本大震災の被災地から兵庫県及びその周辺に避難している方々の悲嘆緩和のための癒しの場を提供し、被災者同士が「お里に帰ったような気分」で自由なおしゃべりができる時間を提供する。	49
南三陸町復興支援餅つき大会	東日本大震災復興支援 京都生協職員ボランティア	京都に避難している被災者のために餅つき大会を行うとともに、漁協と南三陸町の被災者の多くが暮らす仮設住宅で復興支援餅つき大会を開催し、京都でついた餅を配布する。	60
岩手県大槌町の風景写真を活用したコミュニティの形成と みらいの写真展による復興まちづくり	From KOBE大槌町復興支援ネットワーク	岩手県大槌町で災害前の風景写真を活用して町民から記憶や思い出を聞き取り、再生したいまちの風景や新たなまちの復興像を描くとともに、町民が外部者を含めて交流することでコミュニティを再生する。	100
特別枠小計 12件			881

【研究助成】

(研究者名50音順、単位:万円)

研究名称	研究者名	主な研究内容	助成額
模型車両による衝突・脱線被害の解析と 防災・減災構想の策定	大阪産業大学工学部交通機械工学科 教授 大津山 澄明	模型車両を使った衝突や脱線衝突現象の再現により衝突被害を定性的・定量的に解析し、衝突や脱線による被害規模を想定することで、今後の防災・減災対策につなげる。	200
台風12号災害における住民の避難行動と 災害経験の伝承	京都大学大学院地球環境学学 助教 落合 知帆	台風12号災害における住民避難時の行動や周辺状況、地域相互の協力・連携の実態をまとめ、過去の災害経験との関連を整理することで、行政・住民組織の地域間連携体制を構築し、次世代に伝承する。	180
遭児大学生への短期グリーフケアグループ実施の意義 -悲嘆と人格変化への効果検討	京都文教大学臨床心理学部 専任講師 倉西 宏	未成年時に親と死別した大学生を対象にグリーフケアグループを実施し、その前後の心理検査により悲嘆に関するグリーフケアグループの効果策定を行うことで客観性のあるエビデンスを得ることができる。	200
海外制度研究を根拠とする 救急医療の法システム案の構築	京都大学公共政策大学院 特別教授 小西 敦	海外の救急医療に関する法システムを分析、そこから役立つ要素を抽出し、日本における制度設計に貢献することに加え、海外の整備状況の概要を公表することで、日本における立法化の機運を高める。	200
災害ボランティア活動時のヒヤリハット体験と 危険回避に関する研究	大阪大学学生支援ステーション 准教授 太刀掛 俊之	行動学的な観点から災害ボランティア活動に伴うリスクを明らかにし、得られた成果を事前の安全教育に還元することで、将来の大規模災害の被災地におけるボランティア活動時の安全管理に有意義な知見もたらす。	200
被災者雇用による被災者支援活動に関する研究	関西大学社会安全学部 准教授 永松 伸吾	大規模災害発生時に被災者支援に必要な人的資源が不足する事態に備え、被災者が被災者支援の場で活躍できる制度や必要なノウハウを整えるとともに、課題解決策についてのマニュアルを作成する。	200
公共交通機関乗車時における津波避難に関する研究 -高校生・観光客を率先避難者に位置づけて-	和歌山大学地域連携・生涯学習センター 講師 西川 一弘	東日本大震災時の避難行動や全国の津波避難対策を調査し、公共交通機関乗車時に災害が発生した場合を想定した避難訓練モデルを開発し、乗客を率先避難者にするために有効な事前情報の内容を検討する。	195
研究助成小計 7件			1,375
< 総合計 > 42件			4,054

【別紙 2】

平成 25 年度公募助成の審査結果について

公益財団法人 J R 西日本あんしん社会財団
事業審査評価委員会 委員長 白取 健治

平成 25 年度公募助成に多数の応募をいただき、深くお礼申し上げます。

応募いただいたどの案件も、「安全で安心できる社会」に対する強い思いが伝わってくるものであり、事業審査評価委員会委員一同、一つひとつの申請書を丁寧に拝見させていただき、慎重に議論を重ねながら審査をさせていただきました。

今回、助成対象となった団体や研究者の方々だけでなく、応募いただいた皆様が真摯な取り組みを継続的に行っていくことが、「安全で安心できる社会」の実現につながる道になると、我々は信じています。

1. 応募状況

今年度の公募助成では、募集テーマを「事故、災害が起こった際の備えやその後のケアに関する活動や研究」とし、昨年度までの募集内容に加え、これまで3回にわたって別々に実施してまいりました「東日本大震災に関する活動助成」に平成 23 年台風 12 号の被災地・被災者支援に関する活動を「活動助成（特別枠）」として盛り込んで募集いたしました。

活動助成及び「活動助成（特別枠）」においては、東日本大震災や台風 12 号災害を受け、事故・災害時における地域の人々の拠り所としての地域コミュニティの重要性が再認識されていることに注目し、近畿 2 府 4 県における地域での新たな仕組みづくりやネットワーク構築など『地域との連携やつながり』を重視する活動を昨年度に引き続き重点対象としました。

また、募集開始前から、近畿 2 府 4 県の社会福祉協議会やボランティア情報センター、NPO 支援機関や大学等を対象にした事前の広報活動を行うほか、昨年度に引き続き、募集期間中に助成に関する個別相談会を開催するなど、この公募助成制度をより多くの方々にとっていただくとともに、募集テーマの浸透に向けて積極的な広報活動を展開しました。

その結果、応募総数は活動助成への応募が 80 件、新設した活動助成（特別枠）への応募が 57 件、研究助成への応募が 27 件、計 164 件となり、広く近畿 2 府 4 県から昨年度を大きく上回る応募をいただきました。

2. 審査プロセス

審査は、これまでと同様、まず事業審査評価委員会を開催し、委員全員で審査基準や具体的な審査方法等を確認したうえで進めました。

7 名の委員全員が全案件の申請書をじっくりと読み込み、1 次審査と 2 次審査において全案件について各自で評価を行いました。その後、全委員出席のもと、最終審議の場として改めて事業審査評価委員会を開催し、各委員が 2 次審査の評価を持ち寄り、集中的な討議の末、助成対象を決定するとともに、その結果を理事会に答申しました。

審査にあたっては、本公募助成の趣旨に合致することを最も基本的かつ重要な判断基準としながら、「社会的な必要性」、「独創性」、「計画性」、「経費の合理性」、「地域の連携やつながり」に加えて、特定分野に偏らないよう活動や研究の分野別バランス等を総合的に勘案し、助成対象を決定しました。

なお、これまで当財団から助成を受け、今回も申請があった活動に対する継続助成の審査にあたっては、新規案件と同様の視点で審査を行うのみならず、新規案件とのバランスを考慮しながら、当財団が継続して助成を行う必要性や、今後の発展性、社会に対する影響力を十分に吟味したうえで、助成対象を決定しました。

3. 審査結果

今回の募集では、質の高い応募が多数寄せられました。これは、本公募助成が回を重ねながら、個別の相談会の開催や社会福祉協議会、ボランティア情報センター等を通じた広報活動が実を結んだことに加え、これまで3回行った助成活動の活動報告会等を通じて募集テーマが浸透したものと考えています。さらには、今回新たに活動助成（特別枠）として東日本大震災や平成23年台風12号災害に係る活動を募集したところ、単なる災害復旧にとどまらず、発災からの時間の経過に応じた様々な支援活動に関する応募をいただきました。

最終的には、当初予定していた助成総額を超えても支出可能な範囲内でできる限りの助成を行うこととし、活動助成では23件、1,798万円（昨年度19件、1,581万円）、今回新設した活動助成（特別枠）では12件、881万円、研究助成では7件、1,375万円（昨年度7件、1,298万円）合計42件、4,054万円を助成対象案件として採択しました。結果、採択率は、活動助成で29%（昨年度48%）、活動助成（特別枠）で21%、研究助成で26%（昨年度19%）となりました。

(1) 活動助成

全体的には、東日本大震災や平成23年台風12号災害に加え南海トラフ地震に関する報道を契機とした防災・減災意識の高まりを受け、防災・減災に関する応募が多く、採択案件も多数にのぼりました。この他、救急救命に関する案件にも多くの応募をいただき、防災・減災関連に次ぐ採択となりました。

また、JR福知山線列車事故の経験を通して命の尊さや人と人とのつながりの大切さを語り伝える活動、大規模事故の被害者に対するサポートのあり方や事故の風化防止を考え、訴える活動等の応募もあり、財団の設立趣旨に合致する活動として今年も採択いたしました。

(2) 活動助成（特別枠）

東日本大震災や台風12号災害への被災者・被災地支援に関する活動ですが、発災からの時間の経過に応じ、今の段階で被災者が求める活動として、心のケアや復興に関する案件を採択いたしました。

(3) 研究助成

活動助成と同様に、防災・減災に関する応募が多数寄せられました。限られた助成金の中で研究分野のバランス等も重視し、心のケアや防災・減災、復興、救急救命など幅広い分野から本公募助成の趣旨に合致し、社会的必要性が高く独創的、先駆的な案件を採択しましたが、一方で、グリーフケア、スピリチュアルケア等の心のケアに関する研究やリハビリテーション等の身体的な機能回復に関する研究が、応募、採択ともに少なかったことが残念でありました。

4. 総評

今回も質の高い、熱意あふれる応募を多数いただき「安全で安心できる社会」の実現に向けた素晴らしい活動や研究に対して助成できることを大変光栄に思います。

今回の募集では、助成総額を可能なかぎり拡大し、多くの質の高い案件を採択しました。一方で、事故、災害が起こった際の備えやその後のケアにおいて重要な役割を果たす、心のケアや身体の機能回復に関する案件が応募、採択ともに少なかったこと、また、積極的な広報により応募の裾野が広がったものの助成総額に限りがあり、質の高い多くの案件を不採択とせざるを得なかったことなどの課題が残されています。

来年度以降は募集要項や申請書の見直しなど、より一層申請者が応募しやすい環境を整え、心のケアや身体の機能回復に取り組む活動や研究といった案件の応募が多く寄せられるような工夫を行うとともに、本助成の制度内容についての改めての検討も必要であると考えています。

「安全で安心できる社会」の実現は、一朝一夕で達成できるものではありません。「安全で安心できる社会」の実現に向けて真摯で地道な取り組みをされている皆様、そして新しく取り組みを開始される皆様のご活躍をお祈りしております。